

**安全に関するご注意**  
 装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「安全にかかわる表示について」「使用上のご注意」—必ずお読みください—をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

**警告**

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- ご自分で本体装置の分解・修理・改造を行わないでください。

**注意**

- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、アース付のコンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

### ステップ1 添付品を確認する

梱包箱を開け、次の添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード ×1
- フロントベゼル
- セキュリティキー(フロントベゼルに貼り付けられています)
- ソフトウェアパッケージ一式\*2
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- ユーザーズガイド\*1
- スタートアップガイド(本書)
- 内蔵バックアップデバイス固定用ネジ ×6
- スライドレール(アウターレール)取り外し工具

\*1 ユーザーズガイドは「EXPRESSBUILDER」JCD-ROM内に格納されています。これを参照するには、Adobe Readerが必要となりますので、あらかじめご使用のPCへインストールしておいてください。

\*2 ソフトウェアパッケージの内容については、ソフトウェアパッケージ内の構成品を参照してください。

### ステップ2 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。次の条件を守ってラックを設置してください。

**参照** 「ユーザーズガイド」の2章「セットアップ」を参照してください。

以下の環境条件を満たした場所  
 <動作時>  
 室内温度：10℃～35℃\*  
 湿度：20%～80%  
 温度勾配：±10℃/時  
 気圧：749～1040hpa  
 <休止時>  
 室内温度：5℃～40℃\*  
 湿度：10%～80%  
 温度勾配：±15℃/時  
 気圧：749～1040hpa

室内湿度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

腐食性ガスの発生する環境で使用しない

前後1m以上、左右60cm以上、高さ40cm以上のスペースがとれる場所

複数のラックを設置するときは必ず連結させる

スタビライザを取り付ける

添付の電源コードが届く範囲にあるコンセントまたはUPS

AC100V、平行二極アース付きのコンセントまたはUPS

水平でじょうぶな床の上

\* 室内湿度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

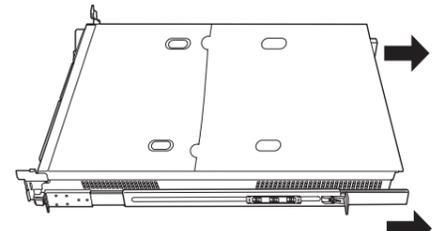
### ステップ3 本体を設置する

本体をEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置します。

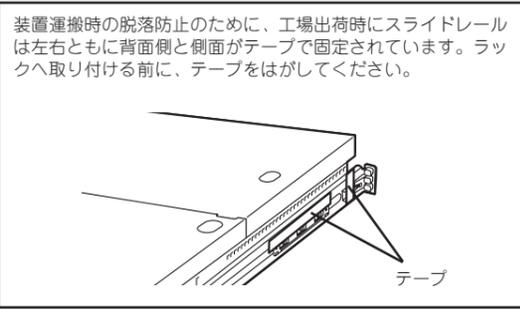
**参照** 「ユーザーズガイド」の2章「セットアップ」を参照してください。

**重要** ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1 本体左右に取り付けられているスライド式のレールを取り外す。

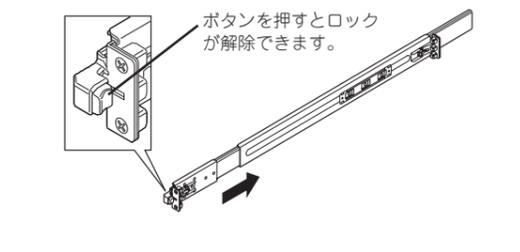


装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。



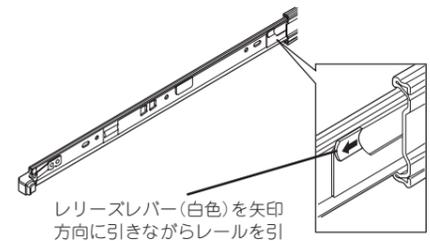
テープ

2 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。



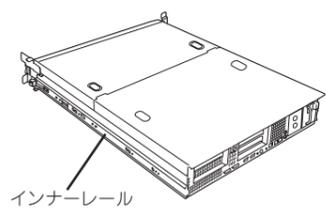
ボタンを押すとロックが解除できます。

しばらくすると、「カチッ」とロックされます。本体側面にあるリリースレバー(白色)を矢印の方向に引き、ロックを解除しながら本体から取り外す。



リリースレバー(白色)を矢印方向に引きながらレールを引き出してください。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。



インナーレール

### ステップ3 レールアセンブリを取り外す

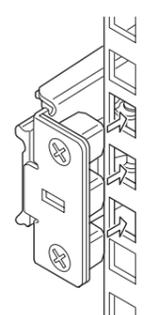
取り外したレールアセンブリは、レバーを押しながら矢印方向へ動かし、もとに戻してください。



レバー

レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

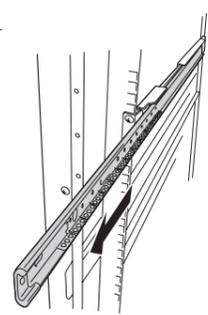
3 レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付けます。この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。



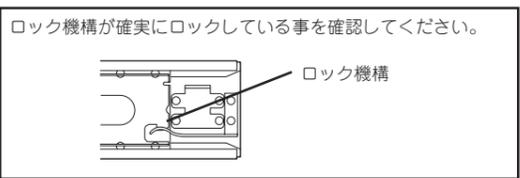
上図は右側(前面)を示していますが、右側(背面)、左側(前面/背面)も同様に取り付けてください。もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

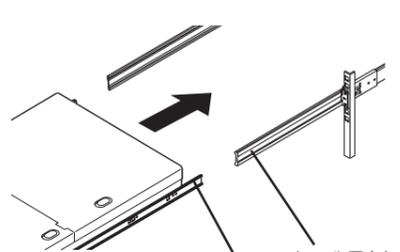


ロック機構が確実にロックしている事を確認してください。



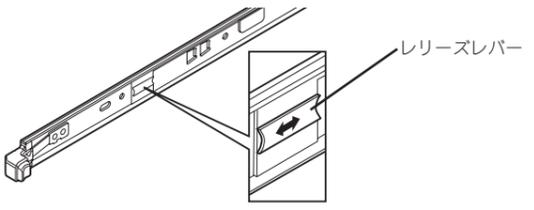
ロック機構

5 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付けます。本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。



レールアセンブリ  
装置側インナーレール

途中で本装置がロックされたら、側面にあるリリースレバー(青色のレバーが左右にあります)を手前または、奥に押しながゆっくりと押し込みます。



リリースレバー

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり装置を固定できます。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けください。初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じるがありますが、製品に支障はありません。差し込みが不完全ですと、片側のレールが押し込み時に途中で止まる場合があります。その場合一度装置をロックがかかるまで完全に手前に引き出してください。左右のロックが完全にかかったのを確認してから、その後左右のロックを解除させて再び装置を押し込んでください。

6 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

以上で設置作業は完了です。

### ステップ4 ケーブルを接続する

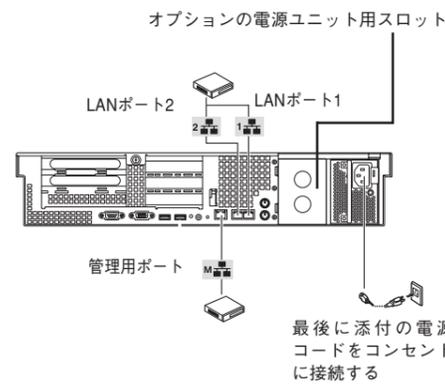
ネットワークケーブルと付属の電源コードを接続します。

**参照** 詳しくは「ユーザーズガイド」の2章「セットアップ」を参照してください。

**重要**

- 本体に接続するケーブルは、LANケーブルと添付の電源コードのみです。その他のケーブルを接続する必要はありません。また、複数のケーブルを接続するときは、まずLANポート1のみに接続して初期設定を行い、設定完了後に残りのコネクタに接続してください。
- 本装置への各種オプションの取り付け・取り外しは、本書で示すセットアップが完了した後に行ってください。

オプションの電源ユニット用スロット



LANポート2 LANポート1

管理用ポート

最後に添付の電源コードをコンセントに接続する

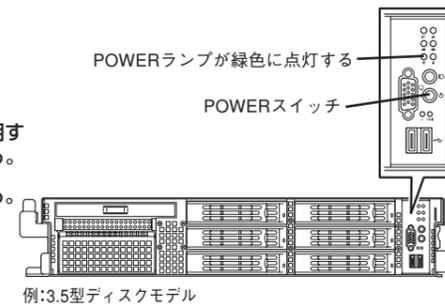
以上で本体の電源をONにできる状態になりました。

### ステップ5 電源をONにする

電源をONにします。

1 本体のLANポートコネクタとネットワーク環境として使用するHUBにLANケーブルが接続されていることを確認する。

2 POWERスイッチを押して、システムの電源をONにする。



POWERランプが緑色に点灯する

POWERスイッチ

例:3.5型ディスクモデル

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

表面からの続きです。

## ステップ6

# 初期設定をする

管理PCで初期設定ツールを使用し、本装置の初期設定を行います。

初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にある管理PC (Windows Server 2003/Windows Server 2003 R2/Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2/Windows XP/Windows Vista/Windows 7)と添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。

初期設定に必要な情報として、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「コンピュータ名」、「管理者パスワード」を事前に決定してください。

\* IPアドレスとサブネットマスクは、初期設定およびリモートデスクトップ接続を行う管理PC (Windowsマシン)と同じネットワークアドレスになるよう設定してください。

\* 管理PCでファイアウォールが有効になっていると、初期設定が正しく行えない場合があります。初期設定ツールで使用するポートをファイアウォールの例外に設定してください。設定方法については、初期設定ツールのヘルプの「検索」タブで「Windows ファイアウォール設定手順書」を検索してください。



詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照したい場合は、以下のファイルを開いてください。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの  
¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

① ステップ4で本体の電源をONしたら、管理PCの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットします。オートラン機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、一度光ディスクドライブから「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをイジェクトし、再度セットしてください。

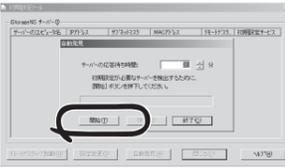
② [ソフトウェアをセットアップする]をクリックして、表示されたメニューから[初期設定ツール]をクリックします。



③ 初回のみ[ご確認]の画面が表示されます。装置添付の使用許諾契約書をご一読の上、[OK]をクリックします。

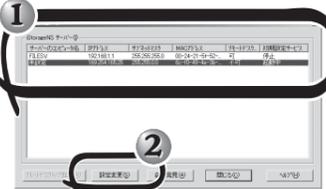


④ 初期設定が必要なサーバーを検出するために、[開始]をクリックします。

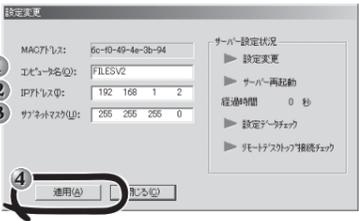


対象となるサーバーが、初期設定ツール画面内の[サーバーのコンピュータ名]欄に「未設定」と表示されます。「未設定」のサーバーが検出されましたら、[停止]をクリックして自動発見を停止後、[終了]をクリックして自動発見を終了させます。なお、対象となるサーバーのOSが起動するまでには、構成によって、20~30分かかる場合があります。30分経っても検出できない場合は、再度[開始]をクリックしてください。

⑤ 「未設定」のサーバーのリモートデスクトップ起動の表示が「確認中」から「可」に変わった場合は、リモートデスクトップによる接続が可能なので、「未設定」のサーバーを選択し、[リモートデスクトップの起動]をクリックして「ステップ6 管理PCからリモートデスクトップ接続を行って設定する」に進みます。「不可」に変わった場合は、「未設定」のサーバーを選択し、[設定変更]をクリックします。



⑥ コンピュータ名、IPアドレス、サブネットマスクを入力して [適用] をクリックします。



⑦ 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK]をクリックします。



サーバー設定の変更が始まり、サーバー設定状況の内容が順次更新されます。

⑧ 完了メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

以上で、本装置の初期設定が完了し、リモートデスクトップ接続で管理できる状態になりました。

## ステップ7

# 管理PCからリモートデスクトップ接続を行って設定する

本装置と同じネットワークアドレスにある管理PCを使用して必要事項を設定します。設定方法の詳細が必要な場合は、管理者ガイドを参照してください。

- ① 管理PC上でリモートデスクトップを起動します。
- ② 接続先に本装置のコンピュータ名またはIPアドレスを入力します。
- ③ ユーザー名に「administrator」を入力し、次にパスワードを入力して[OK]をクリックします。



出荷時のパスワードについては、本装置に添付のスタートアップガイドに記載されています。

- ④ [スタート]-[Windows セキュリティ]をクリックします。
- ⑤ [パスワードの変更]をクリックして、パスワードの変更を行います。



- 本装置のセキュリティを保つために、出荷時のadministratorのパスワードを必ず変更してください。
- パスワードの文字数は6文字以上である必要があります。また、パスワードには、英大文字、英小文字、数字、アルファベット以外の文字の4つの種類のうち3つの種類が使用されていなければなりません。
- パスワードの有効期限は初期設定では42日になっておりますので、お客様のポリシーに合わせて適宜変更してください。

⑥ 初期構成タスク画面が表示されますので、必要事項を設定します。



- \* 初期設定ツールでを使用したポートを閉鎖  
初期設定ツールでを使用したポートを閉鎖してください。
- \* タイムゾーンの設定  
日時が自動更新の環境でない場合は設定してください。
- \* コンピュータ名とドメインの入力  
初期設定ツールでコンピュータ名を変更していない場合、ドメインに参加する場合は設定してください。

## ステップ8

# ESMPROをセットアップする

NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェア「ESMPRO®」のセットアップをします(その他にもディスプレイを管理するソフトウェアなどがあります。詳しくは「ユーザーズガイド」を参照してください)。本装置には、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」がバンドルされています。

### ESMPRO/ServerAgent

iStorage NSシリーズの内部温度やファン、ハードディスクなどの状態監視やサーバに異常や障害が発生したときに自動的に本装置の電源をOFFにしたリ、本装置監視用コンピュータやページャへの通報などを行うユーティリティです。



設定方法については、ユーザーズガイドを参照してください。

ESMPRO/ServerAgentをインストールした装置の状態は管理PC (ESMPRO/ServerManager)のディスプレイから確認することができます。

### ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerManagerはiStorage NSシリーズと同一のネットワーク上にある管理PCにインストールするソフトウェアです。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットして表示されるメニューから[ソフトウェアをセットアップする]→[ESMPRO]の順にクリックします。以降は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

### iStorage NS連携モジュール

ESMPRO/ServerManager (Ver.5未満) がインストールされている環境にiStorage NS連携モジュールを適用することで、ESMPRO/ServerManager (Ver.5未満) より、リモートデスクトップ接続が起動できます。[EXPRESSBUILDER]CD-ROMを光ディスクドライブにセットして表示されるメニューから[ソフトウェアをセットアップする]→[iStorage NS連携モジュール]の順にクリックします。以降は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

以上でセットアップは完了です。引き続き、管理者ガイドを参照して必要な設定を行ってください。

# お読みください

### OS再インストールの前に

OSの再インストールを行う際に、ディスクアレイ構成を変更したり、ベーシックディスクへ戻したりすると、ハードディスクドライブ上のデータはすべて削除されます。また、誤った手順を実行すると、ハードディスクドライブ上のデータがすべて削除される危険性がありますので、再インストール作業の前に、必ず必要なデータを外付けバックアップ装置などにバックアップしてください。

### RAIDシステムの構成を変更した場合

RAIDシステムの構成を変更した場合、ユーザーズガイドを参照して、RAIDシステムのコンフィグレーション情報をバックアップしてください。

### 電源制御機能の使用について

本装置には電源制御機能をサポートしていないアプリケーションが含まれています。スタンバイ/休止状態で運用しないでください。

### 本装置のシャットダウン操作について

本体のPOWERスイッチを使って本装置をシャットダウン(電源OFF)しないでください。シャットダウンは、管理PCからリモートデスクトップ接続し、シャットダウン操作を行ってください。UPSに接続している場合は、UPSの管理ソフトウェアを利用したスケジュールシャットダウンを利用することもできます。

### 本装置のドキュメントについて

管理者ガイドおよびユーザーズガイドは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されていますが、改版されることがあります。最新版は以下にてダウンロードできますので、ご確認をお願いします。

[NEC iStorage NSシリーズサポート情報]  
<http://support.express.nec.co.jp/istorage/>  
【補足】

上記 URL にて「型番・モデル名から探す」を選択し、テキストボックスにモデル名を入力して検索してください。

### システムのパフォーマンスを活用するために

増設バッテリーを搭載している場合は、本装置のパフォーマンスを最大限に活用するために、ディスクアレイコントローラのライトキャッシュの設定を「Write back」にする必要があります。特にNFS機能を使用する場合にはこの設定は有効ですので、「Write back」に設定することをお勧めいたします。

# iStorage NSシリーズのご利用にあたって

iStorage NSシリーズでは、基本となるサポート情報を以下のサイトに公開していますので、定期的にご参照頂くか、RSSの配信登録を行い、製品をメンテナンスされることをお勧めします。  
<http://support.express.nec.co.jp/istorage/>

また、有償の保守サービスとして「PP・サポートサービス」を準備しております。本サービスをご契約いただくと、電話や電子メールなどでのお問い合わせ、ご契約者様専用IDでのWebサーバへのアクセスなどが可能となり、ソフトウェアのQ&Aや技術情報などをご覧いただけるようになります。また、ソフトウェアのリビジョンアップ情報の提供などもご契約者様だけのサービスとなります。

「PP・サポートサービス」の詳しい内容については、以下をご覧ください。

[PP・サポートサービス] ご案内のページ  
<http://www.nec.co.jp/service/support/pp/index.html>

# お客様登録をする

保証書に記載されている保証を受けるためには、ユーザ登録が必要です。インターネット(ClubExpressサイト)よりユーザ登録を行ってください。  
<http://club.express.nec.co.jp>

### 商標について

ESMPRO、DianaScopeは日本電気株式会社の登録商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2010  
NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。  
このマニュアルは再生紙を使用しています。